

高木復興大臣福島県訪問ぶら下がり記者会見録
(平成28年2月28日(日) 15:40～15:45 於) 浪江町役場)

1. 発言要旨

本日は、飯舘村、浪江町を訪問させていただきました。それぞれの町村を視察するとともに、馬場浪江町長と意見交換を行わせていただきました。

飯舘村内では、復興公営住宅の飯野町団地を視察し、集会所を設けるなど避難者の方々が孤立せずにコミュニティーを維持する工夫を伺うことができました。

深谷地区では、道の駅を復興拠点に整備する計画を伺いました。特別養護老人ホームでは、介護士の確保に苦労しながら、福島の地元に残って運営を継続しているというお話を伺えたところでございます。

また、菊池製作所では、医療・介護用マッスルスーツの製造工程を視察させていただきました。原発事故後、福島の地元に残った従業員で操業を続けてこられた苦労を伺うとともに、ドローンや廃炉用ロボットの開発など、前を向いて進まれていることに、希望の光を感じることができました。

浪江町内では、復興拠点となる浪江駅前や町役場周辺における宿泊施設や商業・診療所の整備予定地を視察いたしました。

また、共同墓地を高台に移転した大平山霊園から復興祈念公園の候補地や震災遺構の検討中の請戸小学校、イノベーション・コースト構想の拠点用地を視察いたしました。

請戸漁港の再生に向けた状況も伺いました。

また、浪江町長との意見交換では、帰還困難区域の除染、町内一時立入りのための宿泊施設の確保、イノベーション・コースト構想の拠点の選定・立地などの要望書を受け取りました。

高齢の住民が多く、帰還を進めるためには、医療や介護体制の確保が重要だと、そういうようなお話も頂いたところございまして、私からは、町民の皆様の一日も早い帰還のために着実な復興の推進に精一杯努力をさせていただきます。頂いた要望は関係省庁と一体となり後押しすると申し上げました。

本日の訪問では、福島の地元に残って、前を向いて進んでいらっしゃる人たちとお会いし、私自身もエネルギーをもらいました。エネルギーの源は福島の地元に残る、同じモチベーションを持つ人たちのつながりであるということを実感させていただきました。

「福島に残る」環境の整備を支援していきたいと考えております。今後も被災地にしっかりと寄り添いながら、現場主義に徹して、きめ細かな対応を行い、被災地復興の更なる加速化に向けて全力で取り組んでいきたいと思っております。以上でございます。

2. 質疑応答

(問) お二方にお尋ねいたしますが、今日、浪江町長から要望書がありまして、

それで大臣がお受けしましたが、町長にお尋ねしたいのですけれども、この要望書の中で最も実現してほしいものというのは一つ二つ挙げるとしたら何でしょうか。

(馬場浪江町長) やはり現在のところイノベーション・コースト構想、その選定に当たって、いろいろな、何と言うんですかね、価値があるところが非常にありますので、そういう価値を生かしていけるようなところに早く選定していただきたいなということを申し上げました。

(問) 今日の今、あの何か、一時立入り、荒廃家屋があって家に泊まらない方がいる、そういう方の支援もお願いしたいということであったんですけれども、その辺、具体的に、大臣はこの11項目の中で、可及的速やかにすぐ実行できそうなことって何かありますか。

(高木復興大臣) そうですね、どれも大事な視点だと思っておりますけれども、今、記者さん御指摘の一時立入りのための宿泊施設、これはなかなかすぐに家にとりわけにいきませんし、また、遠くに避難なさっている方もいらっしゃるって、行ったり来たりするということも大変困難だということをお聞かせいただいて、町としてそういった施設の計画を具体的にお持ちだということもお聞きしました。是非それについての支援をということでございますので、検討させていただきたいというふうに思っております。重要な要望だというふうに認識をいたしております。

(以 上)